# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-1

| 提出日 | 令和7年4月30日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | NPO 法人病児保育をつくる会 |
| | 記入者名 | 三上　久子 |
| | 部署名 | 子育て支援課 |
| | 記入者名 | 中村　理沙 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 緊急サポート事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | NPO 法人病児保育をつくる会 |
| | 行　政 | 子育て支援課 |
| 事業の目的及び目標値 | 【目的】<br>緊急性を伴う預かりを行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援する。<br>【目標値】<br>利用件数 35 件 | |
| 事業の内容 | 小学生までの児童を対象に、病気、急な出張、保育施設での急な呼び出しがあった場合の送迎など、緊急性を伴う預かりを会員同士の相互の助け合いで行う。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 利用件数 34 件（病児 10 件、預かり 20 件、送迎 3 件、宿泊 1 件）<br>利用会員数 246 名、協力会員数 31 名 | |
| 協働事業決算 | 総額　924,000 円（うち市負担分 924,000 円） | |
| | 簡単な内訳 | 委託料（内訳）人件費　657,519 円<br>広報費　41,555 円<br>講習会費用　64,869 円<br>保険費用　9,713 円<br>通信費　42,139 円<br>一般管理費　91,667 円<br>その他　16,538 円 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日　から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　■委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年３月２５日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>サポート会員の加入に向けて、講習会の実施時期や事業内容について共有を図った。<br><br>【行政⇒団体】<br>サポート会員の加入に向けて、講習会の実施時期や事業内容について共有を図った | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br><br>サポート会員に係る講習会の周知方法を改め、受講者が増加するような改善策を図り共有した。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-2

| 提出日 | 令和7年4月30日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | NPO 法人よしかわ子育てネットワーク |
| | 記入者名 | 中島　眞由美 |
| | 部署名 | 子育て支援課 |
| | 記入者名 | 中村　理沙 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | ホームスタート事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | NPO 法人よしかわ子育てネットワーク |
| | 行　政 | 子育て支援課 |
| 事業の目的及び目標値 | 【目的】<br>育児に不安を抱えている保護者を対象に家庭訪問を通じて育児相談を行い、保護者の孤立を防ぐ。<br>【目標値】<br>訪問回数 230 件 | |
| 事業の内容 | 未就学児が抱える引きこもりがちな親に対して、一定のノウハウを身につけた地域ボランティアが自宅へ出向き、何気ない会話のなかで孤立感を防止し、児童虐待を防止することはもとより、家族のエンパワーメントを図ることで子どもの利益を実現する。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 訪問回数：248 回<br>ビジター数：48 名 | |
| 協働事業決算 | 総額　1,734,000　円　（うち市負担分　1,734,000　円） | |
| | 簡単な内訳 | 委託料（内訳）人件費　1,360,878 円<br>研修費　98,500 円<br>通信費　96,000 円<br>消耗品　20,000 円<br>交通費　80,000 円<br>その他　78,622 円 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日　から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　■委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年３月２５日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>ビジター養成講座の開催時間を改めたことで、参加者が増え、ビジター数増加に繋がった。<br><br>【行政⇒団体】<br>ホームスタート説明会への参加や、ビジター養成講座に参加し、事業の説明を行ったことで、実際のビジター（訪問支援員）と顔を合わせ、つながりを持つことができた。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br><br>ビジターのスキルアップと人員確保についての必要性を共有した。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-3

| 提出日 | 令和7年4月30日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | NPO 法人よしかわ子育てネットワーク |
| | 記入者名 | 中島　眞由美 |
| | 部署名 | 子育て支援課 |
| | 記入者名 | 中村　理沙 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 子育て支援センター事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | NPO 法人よしかわ子育てネットワーク |
| | 行　政 | 子育て支援課 |
| 事業の目的及び目標値 | 【目的】児童福祉法に定められた子育て支援事業の一つ。地域における子育てを支援するため、子育て中の親子の交流の場の提供、子育て相談、地域の子育て関連情報の提供など、子育て支援センターの運営を行う。（美南子育て支援センター及び中央子育て支援センター）<br>【目標値】利用者数（延べ）合計 13,000 人 | |
| 事業の内容 | （1）子育てサロン等子育て支援事業の展開<br>（2）出前講座の開催<br>（3）吉川市子ども・子育て応援サイト「よしよしねっと」の管理運営 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 利用者数（延べ）<br>美南子育て支援センター：7,073 人<br>中央子育て支援センター：6,511 人 | |
| 協働事業決算 | 総額　14,313,000 円（うち市負担分　14,313,000 円） | |
| | 簡単な内訳 | 委託料（内訳）人件費　13,260,681 円<br>消耗品　120,000 円<br>負担金等　65,200 円<br>研修費　15,000 円<br>講師謝金　60,000 円<br>賠償保険等　45,130 円<br>その他　746,989 円 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日　から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　■委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年３月２５日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>コロナが落ち着いたこともあり、支援センター内での食事などについて、現場目線の意見と行政目線での意見のお互いの意見を取り入れ、それぞれの立場を尊重し合える関係性が得られた。<br><br>【行政⇒団体】<br>コロナが落ち着いたこともあり、支援センター内での食事などについて、現場目線の意見と行政目線での意見のお互いの意見を取り入れ、それぞれの立場を尊重し合える関係性が得られた。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br><br>子育て支援センターを運営する上で、疑問や不安などを感じたときは、言語化して共有するとともに、記録をとり、より目的を意識した行動ができるように改善を図った。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4.4

| 提出日 | 令和7年4月30日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | 吉川市青少年相談員協議会 |
| | 記入者名 | 水野　和希 |
| | 部署名 | 子育て支援課 |
| | 記入者名 | 中村　理沙 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 青少年相談員活動推進事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 吉川市青少年相談員 |
| | 行　政 | 子育て支援課 |
| 事業の目的及び目標値 | 新型コロナウイルスをきっかけに「新しい生活様式」が普及し、青少年を取り巻く環境や遊びも大きく変化している。携帯型ゲーム機等の普及で、青少年の「バーチャルな世界」は拡大傾向にある。一方で、自分の身体を使い、鍛える「リアルの世界・遊び」は年々享受しにくい社会になっているように感じる。青少年が大人として成長していく過程で、実社会や自然の中で養う生きる力が不可欠であると考える。本協議会では野外活動での体験を通じ、青少年の主体性や協調性など「生きる力」の醸成を目指すことを目的としている。 | |
| 事業の内容 | 参加者全員でレクリエーション活動や料理等を行う。その中で、一人ひとりのリーダーシップを育むこと、仲間と協力して取り組むことの大切さを学ぶ。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 【令和6年度バーベキュー参加者】<br>相談員:9人<br>参加者:14名<br>計:23人 | |
| 協働事業決算 | 総額　146,000　円　（うち市負担分　146,000　円） | |
| | 簡単な内訳 | 市補助金額 146,000 円 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日　から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　　□委託　　■補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年４月３日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>バーベキューの周知方法や事前準備までの課題について共有した。<br>【行政⇒団体】<br>バーベキューの周知方法や事前準備までの課題について共有した。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br>バーベキュー開催までの段取り等について共有した。<br>バーベキューの周知方法や事前準備までの課題について共有した。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-5

| 提出日 | 令和7年4月　15日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | NPO 法人たすけあい・よしかわ |
| | 記入者名 | 代表理事　野田　妙子 |
| | 部署名 | 健康長寿部　長寿支援課 |
| | 記入者名 | 近藤 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 老人福祉センター運営事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | NPO 法人たすけあい・よしかわ |
| | 行　政 | 健康長寿部長寿支援課 |
| 事業の目的及び目標値 | 本事業は、老人福祉センターの指定管理者として施設の管理をするとともに、高齢者に対して各種の相談に応じ、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションの供与などの運営をすることを目的とする。 | |
| 事業の内容 | 老人福祉センターは高齢者の教養の向上、健康の保持増進、社会参加の拡大、いきがいづくりなどを目的に設置された施設である。平成18年度から吉川市連合長寿会が指定管理者として運営していたが、令和2年度よりNPO 法人たすけあい・よしかわが指定管理者となっている。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 1　施設利用状況<br>令和6年度利用者数:22，312名<br>利用団体数:523団体<br>2　寄り日開催状況<br>令和6年度クラブ数:109団体<br>参加人数:1，276名<br>3　自主事業<br>ぱれっとサロンなないろ　回数:49回　参加人数:2，001名<br>シニア卓球くらぶ　回数:94回　参加人数:1，351名<br>ぱれっとシアター　回数:　2回　参加人数:　77名<br>スマホ教室　回数:12回　参加人数:　29名 | |
| 協働事業決算 | 総額　29,574,000 円（うち市負担分　29,574,000 円） | |
| | 簡単な内訳 | 委託料 |
| 実施期間 | 令和6年　4月　1日　から　令和7　年　3　月　31日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　■委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年　４月　７日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>施設利用者数は戻っているが、引き続き感染症予防を行う。各種自主事業に工夫を凝らし、利用者から好評を得ている。地域に開かれた施設として、誰もが気軽に参加できる斬新な企画の自主事業を引き続き実施していく。<br>【行政⇒団体】<br>引き続き、センターの活性化に努め、利用者の拡大と満足度の向上に努めてほしい。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>【団体】<br>今後も利用者のニーズを見極め、求められる自主事業を検討・展開し、新規の利用者を増やしていきたい。<br>【行政】<br>高齢者の憩いの場、活動・活躍の場として、誰もが利用しやすい施設となるよう、行政として協力していきたい。また、連合長寿会の事務局として、引き続きサポートをお願いしたい。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-6

| 提出日 | 令和7年4月　15日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | NPO 法人たすけあい・よしかわ |
| | 記入者名 | 代表理事　野田　妙子 |
| | 部署名 | 健康長寿部　長寿支援課 |
| | 記入者名 | 近藤 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 生涯現役の養成事業～世代を越えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～ | |
| 事業の実施者 | 団体等 | NPO 法人たすけあい・よしかわ |
| | 行　政 | 健康長寿部長寿支援課 |
| 事業の目的及び目標値 | 本事業は、これまで地域社会と関わる機会が少なく地域デビューに結びついていない男性シニアや、これから退職時期を迎える男性シニアなどに向けた地域活動等への参加支援を実施することで、地域デビューへの不安を取り除くとともに地域活動等への参加促進を図ることを目的とする。 | |
| 事業の内容 | 男性シニアの地域活動などへの参加を後押しするため、NPO 法人たすけあい・よしかわに事業を委託し、シニア元気塾（グループ別活動）を実施した。また、シニア元気塾たまり場の運営を行い、参加者の自主的活動の支援、交流、情報交換を行った。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 1　シニア元気塾の開催<br>野菜作り、高齢者福祉の増進（福祉有償運送事業）、スポーツで子どもたちと交流、吉川市歴史探訪・ウォーキングの4グループで活動した。参加者数：延べ 446 名<br>・全体会の開催2回、遺影撮影会など終活セミナーを行った。<br>・福祉有償運送事業については 2,604 件の利用があり、13262.2 キロの運送を行った。<br>2　シニア元気塾たまり場の開催<br>毎月第1・第3水曜日に平沼地区高齢者ふれあい広場において、参加者の自主的活動（笑いヨガ、歌声喫茶）の支援、シニアへの情報提供と相互交流の場作りを行った。<br>参加者数：延べ 309 名 | |
| 協働事業決算 | 総額　1,029,000　円　（うち市負担分　1,029,000　円） | |
| | 簡単な内訳 | 委託料 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　■委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年　４月　８日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>多くの市民に参加してもらうためには、行政の支援（広報等）は重要。コロナ禍においては、参加者の自主的な活動を支援していく必要があり、また持続性のある事業展開のために、子育て世代等他世代も巻き込んでいきたいと考えている。地域に根ざした市民団体の力という強みと役割を活かして、活動できている。<br>【行政⇒団体】<br>活動人数が少なく、イベントの企画運営が困難な状況であるが、各グループで工夫し、地域活動の参加促進に努めていた。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>【団体】<br>引き続き、持続性のある事業展開を目指しつつ、事業の目的に沿うような事業を展開し、新たな参加者の新たな活動の創出につなげていく。<br>【行政】<br>事業目的である男性シニアおよびアクティブシニア層の地域活動の参加促進を図るため、事業の参加者募集や団体の取り組みについて広報を行うなど、引き続き支援を行っていくとともに、適宜事業内容に等ついて見直しを進めていく。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-7

| 提出日 | 令和7年 2月 5日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | 吉川市民まつり運営委員会 |
| | 記入者名 | 飯田 勝 |
| | 部署名 | 市民参加推進課 |
| | 記入者名 | 岡庭 侑香 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 吉川市民まつり助成事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 吉川市民まつり運営委員会 |
| | 行 政 | 市民参加推進課 |
| 事業の目的及び目標値 | 吉川市民まつり運営委員会と共に、事業費の一部を市から支出することにより、市の物産品や市内企業の PR 及び活性化を目指し、より一層ふるさとづくりを推進することを目的とする。 | |
| 事業の内容 | 市民が互いに交流を深め、コミュニティづくりの推進を図るとともに、市民文化の向上や農業・商工等の振興に寄与するため、吉川市民まつり運営委員会を設置し、市民が主体となった企画・運営で市民まつりを開催する。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 開催までに、市民を委員とした運営委員会等を計6回行い、企画等の意見を交わした。今年度は新企画でオープニングイベントを開催したことにより、開始時間からすでに市内外から多くのお客様が来場し、大いに賑った。来場者アンケートでは「また来たい」との回答を99%いただき、多くの来場者から「楽しかった」との声もいただくことができた。 | |
| 協働事業決算 | 総額 | 4,145,671 円 |
| | 簡単な内訳 | 印刷費（167,475 円）、会場費（3,818,381 円）、備品購入費（53,948 円）、消耗品費（17,447 円）、イベント事業費（83,010 円）、事務費（5,410 円） |
| 実施期間 | 令和6年5月28日 から 令和7年2月6日 まで | |
| 協働の形態 | ☑共催 □委託 □補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年２月６日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>販売時間の周知方法や搬出入ルール、行列をスムーズに整列させることが出来るテント配置等について行政と共有し、解決策について意見交換した。また、限られた予算内でまつりを実施するために、費用の削減が実施可能な項目について話し合った。<br>【行政⇒団体】<br>前回の市民まつりを開催した際に挙げられた課題をもとに、販売開始時間の周知を図るための方策や、搬出入ルールについて話し合った。また、市民まつりをより一層盛り上げるためのイベントについてアイデアを出し合い、実現に向けて話し合った。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br>市民まつり来場者及び出展団体アンケートで出された意見を団体・行政間で共有したうえで、各委員から改善のための取り組みについて意見を出していただいた。出された意見については、来年度の運営委員会に引き継ぎ、次年度の市民まつりに向けて具体的な運営方法を検討していく。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-8

| 提出日 | 令和7年5月8日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | 吉川市コミュニティ協議会 |
| | 記入者名 | 石井　亮英 |
| | 部署名 | 市民参加推進課 |
| | 記入者名 | 渡辺　滉大 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | コミュニティ協議会事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 吉川市コミュニティ協議会 |
| | 行　政 | 市民参加推進課 |
| 事業の目的及び目標値 | 吉川市におけるコミュニティづくりを推進し、活力ある人間性豊かなまちづくりの実現を目指す。 | |
| 事業の内容 | ①夏休み期間、市内公共施設に児童、幼児を対象としたクイズを配置し、施設内を探検しながら配置されたクイズに答えていくクイズラリーを実施。<br>②過去の悲惨な戦争を振り返り、平和について改めて考える機会を提供するとともに、平和への願いを次の世代に伝えていくことを目的として、小中学生を主な対象とした平和バスツアーを実施。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 令和6年度実績<br>①クイズラリー<br>・応募総数　697人　・期間　7月20日（土）から8月26日（月）まで<br>・開催場所　市民交流センターおあしす、児童館ワンダーランド<br>②平和バスツアー<br>・参加者22名（大人9名、子ども13名）・実施日　7月31日（水）<br>・行先　予科練平和記念館（茨城県稲敷郡阿見町） | |
| 協働事業決算 | 総額　124，415　円　（うち市負担分　124，415　円） | |
| | 簡単な内訳 | クイズラリー　110，815円　　平和バスツアー　13，600円 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日　から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | ☑共催　□委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：令和６年６月１２日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>クイズラリー事業は、吉川市内の子どもたちに吉川市のことをもっと知ってもらうことができるよい事業であり、景品を協賛してくれる会社については、よいPRの場にもなると考えている。今後は、吉川市コミュニティ協議会のメンバーが実施しているイベント内で一緒にクイズラリー事業を実施していきたい。<br>【行政⇒団体】<br>クイズラリー事業は、吉川市内の全ての子供たちが好きなタイミングで遊ぶことができる良い事業であり、クイズを吉川市に関係する内容にしたり、景品を吉川市内の業者にしたりと、吉川をPRできる事業でもある。今後も、パワーアップしながら事業を継続して行いたい。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　（行政）　】<br>吉川市コミュニティ協議会のメンバーと話し合い、吉川市内の他業者に協力を依頼することで、新たなコミュニティづくりを図っていく。また、夏休み期間に吉川市コミュニティ協議会メンバーの開催するイベント会場でクイズラリー事業を追加で実施し、コミュニティ促進を図る。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-9

| | | |
|---|---|---|
| 提出日 | 令和7年3月18日 | |
| 記入者 | 団体等名 | 吉川市自治連合会 |
| | 記入者名 | 石井　亮英 |
| | 部署名 | 吉川市市民参加推進課 |
| | 記入者名 | 岡庭　侑香 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 地域課題を地域で解決するための勉強会 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 吉川市自治連合会 |
| | 行　政 | 吉川市市民参加推進課 |
| 事業の目的及び目標値 | 様々な地域課題の解決に向け、市民と行政との協働で研究を行い、活気と幸福実感あふれるまちを目指す。 | |
| 事業の内容 | ①多文化共生班②自治会課題班の2つの分科会に分かれ、「地域課題を地域住民が解決するための事業」について研究・実施した。また、昨年度より勉強会を充実させるために、大学ゼミとの③共同研究を開始し、令和7年2月に研究の成果報告会を行った。<br>【令和6年度の取り組み】<br>① 多文化共生班…吉川市民まつりポスター(外国語版)作成、吉川市民まつりパンフレット(やさしい日本語版)作成、やさしい日本語リーフレット作成<br>② 自治会課題班…地域課題を地域で解決するための持続可能な仕組みづくりや地域活動の活性化に向けた取り組みについて議論。令和6年度は、中曽根小学校区まちづくり協議会主催の防災キャンプにおいて、自治会未加入世帯をどれだけ来場させられるかという実証実験を行った。<br>③ 共同研究…流通経済大学坂野ゼミと連携し、地域コミュニティの活性化をはかるために、地域と行政でできる取り組みを研究した。龍ケ崎市及び白井市への行政視察、中曽根小学校区まちづくり協議会への会議や防災キャンプに参加し、様々なフィールドワークを行い、成果報告会を行った。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 令和6年度実績(実施日、参加人数)<br>① 多文化共生班…5/16(13名)、7/19(10名)、9/19(13名)、11/7(12名)、1/16(10名)、3/18(13名)<br>②自治会課題班…5/14(16名)、7/26(16名)、8/26(12名)、10/15(9名)、12/16(10名)、2/12(12名)<br>③共同研究…実施回数R6年度計20回、延べ参加人数181名 | |
| 協働事業決算 | 総額　116，240円（うち市負担分　30，000円） | |
| | 【内訳】<br>講師謝礼：30，000円(市負担)、やさしい日本語リーフレット作成費86，240円(自治連合会負担) | |
| 実施期間 | 令和6年4月1日　から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | ☑共催　□委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年３月１８日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>様々な地域課題を解決するために、自治会関係者だけではなく、困りごとがある当事者（外国人の方等）の話を直接聞く機会をどう増やしていくかが課題である。自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら議論することで、本当の意味で様々な立場の方に「吉川市に住んで良かった」と思っていただけるまちづくりにつながると感じた。<br>【行政⇒団体】<br>昨年度より、流通経済大学との共同研究がスタートし、坂野ゼミメンバーが勉強会へ参加していただけることになった。共同研究による成果報告における見解もあり、来年度の勉強会について、地域から寄せられている具体的な課題に対する相談所としての機能を有し、その解決策を導けるよう地域の主体的な取り組みを支援していく予定である。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br>自治会活動においては、会員間の連携が以前よりも弱まっているなかで、自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら連携を深めていく必要がある。次年度は、新たな視点で地域課題を捉え、さらに活動内容を広げられるよう、引き続き検討していく。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-10

| 提出日 | 2025年　6月　9日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | 吉川市国際友好協会 |
| | 記入者名 | 会長　立澤　秀子　学習部会長　郭　育子 |
| | 部署名 | 市民参加推進課 |
| | 記入者名 | 星野　有香 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 日本語教室 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 吉川市国際友好協会 |
| | 行　政 | 市民参加推進課 |
| 事業の目的及び目標値 | 日本語が話せない外国出身の方に、日本語をはじめ、日本の生活文化などを教えるとともに、参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、多文化共生、異文化交流の推進を図る。 | |
| 事業の内容 | 主催：吉川市国際友好協会(スタッフ管理、教材・備品購入など)<br>共催：吉川市(施設予約、資料印刷、日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催など)<br>ボランティアスタッフが日本語で日本語を教える形式で実施。基本的に学習者とスタッフが1対1で生活に必要な日本語を学ぶ。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | ①日本語教室(おあしす)<br>毎週火曜日　午前の部(10時～12時)<br>第二、第四火曜日　夜間の部(19時～21時)<br>・年間47回実施(午前の部)<br>年間24回実施(夜間の部)<br>・参加者延べ人数<br>午前の部　学習者　195人、スタッフ　279人<br>夜間の部　学習者　129人、スタッフ　130人<br>合計　学習者　324人、スタッフ　409人 | ②日本語教室(吉川美南)<br>第二、第四土曜日　(14時～16時)<br>・年間　23回実施<br>・参加者延べ人数<br>学習者　104人、スタッフ　95人 |
| 協働事業決算 | 総額　88,554　円（うち市負担分　88,554　円） | |
| | 簡単な内訳 | 支出　88,554　円<br>（　教室用　教材テキスト書籍　ホワイトボード等文具備品　）<br>※市から吉川市国際友好協会への補助金 55 万円<br>うち日本語教室への補助率 10/10、　88,554　円補助 |
| 実施期間 | 2025年　4月　1日　から　2026年　3月　31日　まで | |
| 協働の形態 | ☑共催　□委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　２０２５年５月１２日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>・昼の日本語教室は、市のボランティア養成講座との連携との効果もあり、ある程度安定して開催は出来ているのは良い点である。<br>・夜の日本語教室のスタッフ不足は、引き続きあり市内全体の日本語教室のニーズとしてもある市内企業で働く外国住民や家族（子どもを含め）に対応できるようにするには、確実に増加傾向の市内在住の外国人住民への対策を当団体の枠を越え、独自に住民への言語保障の観点から市直営の日本語教室など新しい体制を整える課題が特にある。<br>【行政⇒団体】<br>・スタッフが少ない中にも関わらず、昨年度に引き続き、午前の部の教室を毎週開催していることや、日本語教室の後にスタッフミーティングの開催や交流活動などを実施し、また日本語教室がさらに良くなるよう話し合いを作るなど、スタッフの熱意と行動に感謝している。<br>・ボランティアスタッフの人数不足が常に課題であるため、新しいボランティアが少しでも増えるよう、周知の仕方を改善していきたい。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【 団体 ・ 行政 】<br>・養成講座の参加者が日本語教室を身近に思ってもらえるよう、実際に日本語教室をしている場所の隣で講座をすることで雰囲気を知ってもらう。<br>・スタッフの方によるデータ集計により、紙ではなくデータで学習者やスタッフを管理することができた。他の方も使いやすいような工夫を考えていく。<br>・地域日本語教育は、文部科学省に昨年移管されこれから大きな変化のある分野であり、県も新たな体制を整える中、吉川市も他県や他市の取組みを一緒に研究していく。（団体記） | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-11

| 提出日 | 令和7年　6月　9日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | ほたるの会 |
| | 記入者名 | 会長　森田　保 |
| | 部署名 | 農政課 |
| | 記入者名 | 鈴木　達也 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 市民農園ほたる鑑賞会 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 吉川ほたるの会、市民農園管理組合 |
| | 行　政 | 吉川市産業振興部農政課 |
| 事業の目的及び目標値 | 地域の活性化を目指し、吉川市市民農園において市民向けのほたる鑑賞会を開催する。 | |
| 事業の内容 | ほたるドーム内で鑑賞会を実施した。また、打上花火やミニマルシェも同時開催し、イベントの少ない旭地区で夏祭りをイメージした鑑賞会を開催することができた。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 実施回数　令和6年6月28日（金）、6月29日（土）　計2回<br>参加者数　762人 | |
| 協働事業決算 | 総額　476，038円　（うち市負担分　　0　円） | |
| | 簡単な内訳 | ほたる鑑賞会食事代<br>花火代<br>ドーム屋根修繕 |
| 実施期間 | 令和6年6月28日　から　令和6年6月29日　まで | |
| 協働の形態 | ☑共催　□委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | △ | △ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年７月４日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | △ | △ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | △ | △ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | △ | △ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>屋外鑑賞ゾーンや、駐車場などの安全管理を徹底する必要がある。<br><br>【行政⇒団体】<br>より良い鑑賞会場レイアウトの検討が必要。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br>【団体⇒行政】<br>あまり明るいと、ほたるが光らなくなるため、投光器の台数を減らすなど検討が必要。引き続き、ほたるの会会員と連携して参加者の安全確保に努めるとともに、より良いイベント開催を目指す。<br><br>【行政⇒団体】<br>団体が独立してイベントを開催できるようバックアップに努める。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-12

| 提出日 | 2025年 6月 9 日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | 吉川市国際友好協会 |
| | 記入者名 | 会長 立澤 秀子　郭 育子 |
| | 部署名 | 学校教育課 |
| | 記入者名 | 松岡 伸悟 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 外国人児童生徒への日本語学習支援 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 吉川市国際友好協会 |
| | 行 政 | 学校教育課 |
| 事業の目的及び目標値 | 市内小・中学校に就学する外国籍児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足しているために、円滑な学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して個別に日本語学習支援を行うことで、円滑な学校生活を送るとともに、学力の向上を図る。 | |
| 事業の内容 | ・諸外国から入国（転入）し、市内小・中学校へ就学した児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足していると認められる場合に、学校長からの申請に基づき、市教育委員会（学校教育課）が日本語学習支援業務の委託先である吉川市国際友好協会へ支援活動を依頼する。<br>・吉川市国際友好協会は、支援対象児童・生徒、学校等と調整の上、支援活動担当者、活動日等を決定し、市教育委員会及び学校へ通知し、活動を開始する。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 対象となる児童生徒　39 人 | |
| 協働事業決算 | 総額793，000円 （うち市費負担分793，000円） | |
| | 簡単な内訳 | 活動単位　一時限　小学校45分、中学校50分<br>一時限あたりの委託料　1，000円 |
| 実施期間 | 令和6年5月16日　から　令和7年3月7日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　☑委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1 枚のシートを作成してください。（〇・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | △ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | △ | △ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | X | △ |

②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | △ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | △ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | X | △ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

③ふり返り段階　　話し合いをした日：令和７年４月３日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | X | △ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>一部支援事業が予算不足で継続出来なくなってからの調整は、打合せを頻繁に行い対応策をその都度取り情報共有も密に連携しながら進めたのはとても良かった。<br>【行政⇒団体】<br>予算が組まれてる中で、計画当初より、残数を計算しながらの運営ができればよかったが、年度途中の編入等の増加により、計画の修正が必要となった。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br>【団体】前年度より出ていた通り支援児童生徒数の増加に伴い今までの支援のやり方では対応しきれない事が課題として今年度はその限界が明確に見えた形となった。支援の開始についてまた修了の仕方、県費の先生との連携や初期指導/複数指導も取り入れ良い事例を参考にしながら新たな市の現状に見合う支援体制を効率よくできるように準備していく旨を話し合った。見直しを含め体制づくりに向けて定期的な打合せを開催していく事。<br>【行政】近年の、支援が必要な児童生徒数増加の背景も受け、次年度に向けての支援計画や具体的な支援方法まで話し合った。令和7年度についても、定期的に協議の場を設け、必要とされる支援について確認をしていく予定である。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-13

| 提出日 | 令和 7年 4月30日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | 美南小学校区子どもの体験活動実行委員会 |
| | 記入者名 | 福田 稔之 |
| | 部署名 | 吉川市教育委員会生涯学習課 |
| | 記入者名 | 小山 達也 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 吉川市子どもの体験活動 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 美南小学校区子どもの体験活動実行委員会 |
| | 行 政 | 教育委員会生涯学習課 |
| 事業の目的及び目標値 | 家庭・地域・学校が一体となって子どもの生きる力を育むため、各小学校区に設置した実行委員会により体験活動等を企画し、子どもたちの奉仕活動や体験活動などを推進する。 | |
| 事業の内容 | 市内の子どもを対象とした事業目的に総活動を実施する団体（実行委員会）に対し、交付金を交付する。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 令和6年度実績<br>〇美南小学校区 7事業 510名 | |
| 協働事業決算 | 総額 214,283 円 （うち市負担分 48,450 円） | |
| | 簡単な内訳 | 企画・会議費 26, 000 円<br>子どもの活動費 187, 513 円<br>事務費 770 円 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日 から 令和7年3月31日 まで | |
| 協働の形態 | □共催 □委託 ☑補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和７年３月１１日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>今年度は5年ぶりにハロウィンイベントを開催することができた。子どもたちが主体となり、お店やゲームの企画・準備・実施まで行った。始めは任せるのに心配な場面もありましたが、当日の集中力と実行力は素晴らしく、大成功に終わったと思う。また、全ての事業を通して保護者の方々が手伝いに入り、実行委員だけでは至らない部分を補っていただいた。<br>【行政⇒団体】<br>美南小学校区以外の児童への周知、一部イベントのオンライン開催により、児童が本事業に参加する機会を増やすことができた。活動の継続・拡大のために本事業について、一層の周知を図っていきたい。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br><br>今後も保護者やPTAと連携し、事業を継続していきたい。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-14

| | | |
|---|---|---|
| 提出日 | 令和7年4月3日 | |
| 記入者 | 団体等名 | 指定管理者 OIT グループ |
| | 記入者名 | 新井　真哉・竹林　聡 |
| | 部署名 | 吉川市教育委員会生涯学習課 |
| | 記入者名 | 上谷直也 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 市民交流センターおあしす指定管理者事業 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 指定管理者OITグループ |
| | 行政 | 教育委員会生涯学習課 |
| 事業の目的及び目標値 | 市民交流センターおあしす、市立図書館、視聴覚ライブラリー、中央公民館図書室、旭地区センター図書室の管理運営に関し、指定管理者による適切な業務が遂行されるよう管理監督を行う。 | |
| 事業の内容 | 市民交流センターおあしすや市立図書館をはじめとする各図書室の運営と管理を行うとともに、おあしす運営協議会や図書館協議会を開催する。また、利用者に対する満足度調査を行う。 | |
| 事業の実績<br>（実施回数、参加者数など） | （令和6年度実績）<br>おあしす利用実績　　利用件数:7，187件、利用人数:87，977名<br>市内図書館（室）利用実績　貸出冊数:407，444冊、利用人数:96，524名、<br>市立図書館入館者数:178，535名 | |
| 協働事業決算 | 総額　248，147，054円（うち市負担分　248，147，054円） | |
| | 簡単な内訳 | 施設管理業務委託料　248，147，054円 |
| 実施期間 | 令和6年4月1日　から　令和7年3月31日　まで | |
| 協働の形態 | □共催　☑委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ふり返り段階

話し合いをした日：令和７年３月２６日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>おあしす運営協議会、図書館協議会、利用者満足度調査に於いて、施設管理、運営についての課題を共有し、課題解決に向けた施策内容について、生涯学習課より適宜アドバイスを戴きながら検討、実行した点は良かった。更に、施策の進捗状況を、定例会で報告し情報共有を図る事ができた。<br>【行政⇒団体】<br>施設管理、利用者対応について定例的なものは月に1回、その他必要に応じて都度話し合いの上、課題を共有・解決し、市民の為によりよい施設運営となるよう力をあわせた。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【 団体 ・ 行政 】<br>指定管理第４期（R7．４～R12．3）のスタートに向け、独自事業の内容、スケジュール、自主事業の定義、報告様式などについて話し合った。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-15

| 提出日 | 令和　7年　4月　19日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | 子育て広場プーさん |
| | 記入者名 | 嶋田　曜子 |
| | 部署名 | 生涯学習課　中央公民館 |
| | 記入者名 | 森　恵子 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | 幼児家庭教育学級(赤ちゃんサロン)「ゼロママ集まれ！」 | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 子育て広場プーさん |
| | 行　政 | 吉川市中央公民館 |
| 事業の目的及び目標値 | 子育て中の母親が抱える子育ての不安・悩みやストレス等を解消する一助となるよう、「子育て広場プーさん」と協働で開催し、年齢の近い子どもを持つ母親が集まる場を提供するだけでなく、専門の講師等から有用な技術を得ることができる事業を展開する。 | |
| 事業の内容 | わらべ歌、おもちゃ講座、離乳食講座、手形足形、フォトレッスン、応急救命講座、えほんの紹介、ピラティス、ベビーマッサージ | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 実施回数　全10回<br>参加者数　67組　135人 | |
| 協働事業決算 | 総額　29,000　円（うち市負担分　29,000　円） | |
| | 簡単な内訳 | 会場使用料免除<br>講師謝礼金　29,000円を市が負担 |
| 実施期間 | 令和　6年　4月　24日　から　令和　7年　3月　26日　まで | |
| 協働の形態 | ☑共催　□委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | △ | △ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和　７年　３月２６日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>今年度の事業の様子から、来年度の事業内容について検討します。<br><br>【行政⇒団体】<br>今後も講座開催に向けての講師との調整と、開催日当日の運営について、引き続きよろしくお願いします。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br>事業内容を人気の高いものは複数回用意し、さらに、新しい内容も取り入れていく。 | | |

# 吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-16

| 提出日 | 令和　7年　4月　19日 | |
|---|---|---|
| 記入者 | 団体等名 | えほんのひろば |
| | 記入者名 | 山口　寿子 |
| | 部署名 | 生涯学習課　中央公民館 |
| | 記入者名 | 森　恵子 |

## 1｜協働事業の概要

| | | |
|---|---|---|
| 協働事業名 | えほんのひろば | |
| 事業の実施者 | 団体等 | えほんのひろば |
| | 行　政 | 吉川市中央公民館 |
| 事業の目的及び目標値 | 絵本の素晴らしさに触れ、親しみを感じ、子どもたちが豊かな心を育むことを目的に、えほんのひろばのボランティアスタッフと共に開催するものです。 | |
| 事業の内容 | お楽しみ会や、七夕、クリスマスのイベントなどを実施。ボランティアスタッフによる絵本の読み聞かせや遊び、ゲームなどを行う。 | |
| 事業の実績（実施回数、参加者数など） | 実施回数　全５回<br>参加者数　147人 | |
| 協働事業決算 | 総額　　０　円（うち市負担分　　０　円） | |
| | 簡単な内訳 | 会場使用料免除<br>講師謝礼金　今年度は　０　円 |
| 実施期間 | 令和　6年　4月　20日　から　令和　7年　2月　1日　まで | |
| 協働の形態 | ☑共催　□委託　□補助 | |

## 2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 目的や目標は、事前に共有できましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 情報共有やコミュニケーションは図られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。 | ○ | ○ |

### ②事業実施段階

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | お互いの役割を果たすことができましたか。 | ○ | ○ |
| 2 | 進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | 計画通りに事業の実施ができましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。 | ○ | ○ |

### ③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和　7年　1月18日

| No | ふりかえり項目 | 団体等 | 行政 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。 | △ | △ |
| 2 | 事業の目的・目標は達成できましたか。 | ○ | ○ |
| 3 | この事業は協働で行う必要がありましたか。 | ○ | ○ |
| 4 | 協働して実施することで相乗効果が得られましたか。 | ○ | ○ |
| 5 | 事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）<br>【団体⇒行政】<br>新しい仲間が増えて、実施内容も少しずつ変わり、リピーターができてきていると思う。<br><br>【行政⇒団体】<br>新しいボランティアの方が入られて、活性化されていると思います。 | | |
| 6 | 上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）<br>記入者【　団体　・　行政　】<br>新しい内容を取り入れながら、継続していく。 | | |